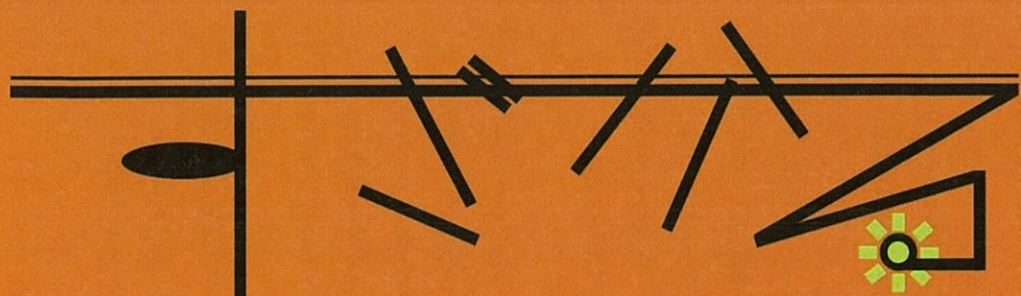


読んでつながるフリーペーパー



第0号 須坂の音楽



「すざかる」とは

「須坂」＋「カルチャー」＝「すざかる」

須坂市民の有志と東京大学文学部の小林真理セミが共同で作成したフリーペーパーです。

私たちは2013年から須坂に関わり、文化活動をより開花させるための提案をしてきました。それを踏まえ、ついに2015年、提案を超えて市民と実際に行動してみることになりました。その結果出来上がったのがこの「すざかる」です。

「すざかる」のテーマはずばり、「須坂の文化活動同士をつなげる」こと。市民とセミ生が話し合うの中で見つけたゴールです。個々に存在する活動がつながれば新たな可能性が生まれ、須坂はもっと盛り上がるのではないのでしょうか。

特集は音楽ですが、さまざまなジャンルの文化活動をする方に読んでいただければと思います。お手にとってくたさった皆さんにとって、何か新しい行動をするきっかけになれば幸いです。

CONTENTS

「すざかる」とは	1
となりの須坂人	3
アートマッチ	9
須坂のむかし話 — 須坂小唄 —	15
Suzaka Musicbase	17
みんなの体験レポ クリスマスレクチャー in 須坂	19
音風景に注目！	21
ほくらのまちの奏者たち	22

音楽が、好き。

音楽は私たちにエネルギーを与えてくれる。
そしてそれに突き動かされるように、
私たちはまた音楽を奏でる。

須坂には音楽が溢れている。
ギター、ピアノ、琴、あるいは歌声。
街のざわめきに耳をすませば、
きつとどこからか旋律が
聞こえてくるだろう。

人々を魅了する音楽、その姿に迫った。

須坂の音楽をひっぱりつづける2組にインタビュー

となりの須坂人



みなみ 和義
南澤 汎山

須坂市文化芸術協会会長として「須坂市民文化祭」「子どもわくわくフェスティバル」主宰。また個人として、「須坂市伝統文化お箏体験子ども教室」代表。「音色に魅をよせて 納涼邦楽コンサート」責任者。両事業とも年一回、今年で15回目を迎える。ほか尺八奏者として市内外各所で演奏活動を精力的に行っている。

今までの活動について

——今までのどのような活動をしていらつしやいましたか？

南澤…まず個人としての活動は、小布施にいた頃から妻の箏と一緒に箏・尺八のコンサートを開いてきた。尺八は奥が深いんだよね。それで、「好きなものを皆さんと共有していこう」、「こんなジャンルがあるよ、ということを知ってほしい」というのが一番の願望だったので、無鉄砲に自分で企画して、そういうコンサートをやってきたんだけどね。やつぱり赤っ恥をかくのはしょっちゅうだよ。初めての舞台の時に、高揚して頭が真っ白になっちゃって。でも、音をださなきゃならない。尺八っていうのは、息を入れれば音が出るわけじゃない。数ミリで音が全然変わっちゃう。その怖さを経験させてもらった。そのうち、子どもにも和文を継承したいな、と思うようになって。それで色々な活動をしてきてる。

——子どものための活動を重視されているんですね。

南澤…そう、子どもは宝だと思う。子ども達に大人が色々経験させたら、後は子ども自身で考えられる。例えば「子ども教室」では、学校に行つて、箏講座、箏鑑賞、また実技の活動をしている。一番多いときは月2くらいで学校を回つて、活動してたよ。そして自分自身が会長という立場になって、文化芸術協会(文芸協)全体でもその方向で行こうと思った。「子どもわくわくフェスティバル」という子どもだけの舞台も、子どもに和のものに触れてほしくてやってる。この間は平日でも110人の子が来た。今年で6回目だけれど、最初のときは54人ぐらいいしかなかった。そして今思うのはいろんなジャンルを集めたいということ。そうすると見ている方も飽きないじゃない。この前も、カラフルで二時間半あつという間だった。うれしいね。

文芸協について言うと、大きく五つのジャンルに分かれていて、謡曲と、音楽と、芸能と、展示と、茶席。でも、昔たくさんいた会員が、今では半分以下になっちゃった。だから、活動を広げて、文芸協を市民に知ってもらうのが、僕の使命だなと思ってる。

市民文化祭について

——市民文化祭はやってみてどのように思いましたか。どんなところが大変だと思いましたか。

南澤…自分の出番が終わると帰る人が意外と多いね。それが一番ネックだと思う。「みなさんだって舞台に立っているときに目の前にお客さんがいなかったら、どう思いますか」って言ったら、「お客さんはいた方がいい」って返す。矛盾してるじゃないかと思う。やつぱりお客さんが来てくれることが一番だね。その点が僕らの、今の自分自身の反省点。

——楽しみの方はどうでしょう。市民文化祭という大きなイベントで、魅力はどこにあるのでしょうか。

南澤…本物に近づけようという気持ちの魅力だね。素人でも、本番に向けてしつかり準備する。

私は、須坂のみなさんはレベルが高いと思う。ただ、そこからさらに後ろをふりかえってくれたら。誰かが背中を支えてくれることがわかる。その支えてくれている人への感謝の気持ちが大事だから。

音楽が人生に与えた影響について

——今までの音楽に関わる活動は人生にどのような影響を与えましたか。

南澤…まずはやつぱり、色々な人とお会いできたというところが宝だね。一日一人でもお会いする、というのを心に決めている。「おはよう」とか、「こんにちは」みたいな挨拶でも話す機会があれば、自分自身の人間形成にもなる。例えば一つ誰かに依頼するのも、今は郵便ひとつで済んじやう。僕はそういう生き方は嫌いだな。直接住所を調べて持つて行って、「こういうものがあるんだけど、協力してちょうだいよ」と言うプロセスが必要だと思う。どんな場合でも、よほどじゃない限り僕は自分で持つていく。いかに人と出会うかが重要。それには、自分で行くことが一番大事じゃないかと思う。

これからの目標

——これからこんな活動をしていきたい、という目標はありますか？

南澤…現状からさらに交流をもっと広げたい、輪をもっと広げたいというのが一番の目標かな。

——具体的には？

南澤…一つのものにこだわらなくても、変わったものや違うジャンルを取り入れたい。そういうことをしている人たちを招致したい。今年は今須坂市に限らず他の市や村の人を招致するつもりだし。僕は音楽だけにこだわっていない。音楽祭の時に、謡曲、芸能、展示、茶席だって



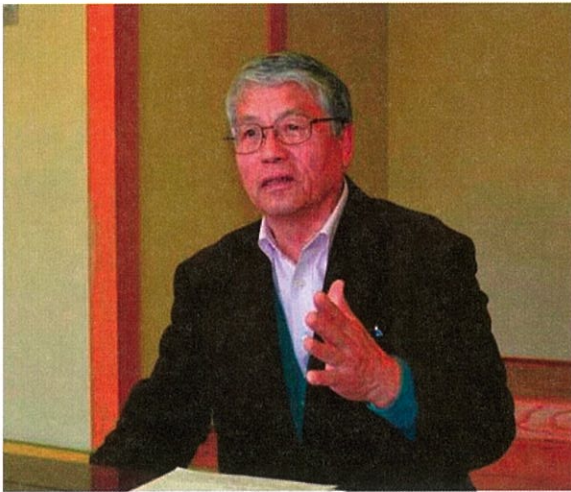
一つのブロックの中に全部みんな入れこんでいると思う。組織が大きくなってきちゃってお願いしてもなかなか敬遠されちゃうんだけれど。大きくなると活動が内々になっちゃうから。でも色んなジャンルをやるとお客さんも楽しいでしょ。自分たちだけの世界にこもらないのはいことだと思う。

それと、きょう皆さんとお話をさせてもらって、僕はこういうコミュニケーションが一番大事だな、と思う。みなさん(ゼミ生)の意見からも取り入れるべきものがたくさんある。そうやって、いろんな人と、いかに大勢とお話できるか、対面できるか。それが僕の関心だね。あと、古い日本文化っていうのを継承していきたいというのも僕が望んでいることで。体が動く限り、目の見える限りは立ち向かっていくつもりだけだ。

——須坂を盛り上げていくには、文芸協の中で活動していない市民の方にどうやって広めるかという部分が大事だと思うのですが、その辺りはどうお思いでしょうか。

南澤…どんな企画でもやっぱり口コミだよ、口コミほど力になるものはないと思う。けれど、出演者が周りに発信してない。だから僕は会員の人にもそれを言うよ。恥ずかしいという気持ち

ちもあるんだと思うけど、それじゃいけないよね。例えば子どもなんかは、「私、こういうことやってるんだ」って友達とか家族とかを連れて来てくれる。この間も子供が、「学校の先生が二人来てくれた」って喜んでいて、「恥ずかしい、恥ずかしい」って言いながらも、楽しんでた。ああいう光景はもう本当に励みだね。大人も、そういう気持ちにならなければいけないよ。せっかくチラシやポスターを作ったとしても、発信していかないとどうしようもない。



——最後に、須坂市民へのメッセージをお願いします。

南澤…やっぱり、何でもいいから興味を持ってもらうことが大事なんじゃないかと思う。そこから、なにかやらなきゃという使命感みたいなものを持てたら。自分の生き様、生きた証をつくるとも言えるのかな…。

あと民意が動かないとダメ。行政は離れたところから温かい目で見守ればいい。行政がやってくれるとみんなそれにおんぶしちゃうままだから。須坂の人は、ちゃんと力のある人たちがいないのかな。けっこうみんな一生懸命にやっている。それがひとつながりのリングになればいいと思う。例えば昔イギリスに演奏活動に行った時、ジャパンウィークっていう週間だった。太鼓などの奏者と一緒に行って。その週はとにかく日本文化一色。箏、尺八、太鼓も演奏している、という感じで。お客さんの数がすごかったよ。そういうのを、月間でもいいからやってみて、「この月に須坂に行けばどこかで何かやってるぞ」ってわかるのが理想。誰がこれをリードするかな。

須坂市民へ

バンド

長谷川綾

須坂出身・在住の
長谷川綾（こゝろ）
（こ）を中心とする
4人組ロックバ
ンド。メンバーそ
れぞれが須坂と深
い関わりを持って
いる。

写真左から宮寄さん、長谷川さん、和久井さん、畔上さん

須坂との関わり

——まず、簡単にメンバーの方の自己紹介をお願いします。

長谷川…ギター・ボーカルの長谷川綾（はせがわあや）です。生まれも育ちも須坂です。

和久井…ギター・作曲の和久井伸悟（わくいしんご）です。長野市でライブハウスの音響と、個人でこのスタジオ（取材場所）を経営しています。俺は須坂出身で、二十

歳ぐらいの時に長野に出るまではずっと住んでいました。

畔上…ドラムの畔上裕貴（あきひろき）です。出身は志賀高原の麓の山ノ内町で、一度は東京に行つてバンド活動をしていただけ、こっちに戻ってきて、自分の家を建てることをきっかけに須坂に住みだしました。

宮寄…ベースの宮寄秀文（みやよひでふみ）です。僕は長野市在住で、須坂に住んでいたのは4年ほどですが、11年間須坂で勤務しました。僕は小学校の教員で、仕事でお世話になった方が須坂にいらつしやったり、須坂の子どもたちを見てきたりしました。教員としても人間として

も成長させてもらった、思い入れのある場所です。

——須坂について、印象に残っている出来事やライブはありますか。

和久井…この前の11月末にゲストハウス蔵でライブしたことかな。場所を僕らが選んで、その場所でやらせてもらうという初めての経験だったし、たくさんのお客さんが来てくれて、みんな喜んで帰ってくれて良かった。

宮寄…僕はね、今から4年前かな、須坂の「音の縁日」というイベントでライブしたこと。初めて、担任していた生徒たちに、自分がベースを弾いているところを見に来てもらったんだ。あと、その時は事情があつてドラム（畔上さん）無しの3人だけでやったんだよね。その後ドラムが病気になって、やむを得ず3人体制でやらなきゃいけないことになったけど、あの時3人でライブした経験があつたからこそ、（畔上さんが一時抜けた時も）やつてこられた。あの経験が無かつたら、きつかつただろうな。

音楽活動にあたって

——音楽をやっている中で、やり甲斐を感じる場面とは？

和久井…自分たちは音楽を作っているけど、結局それって自分の思いを一方的に作品にしているわけだね。だから、「元気をもらえた」とか、お客様から貰う感想っていうのは、やっぱりうれしい。

長谷川…私は、人とのつながりができることかな。ファンやバンド仲間もそうだし、音楽を通して色んな人と友達になるっていう。

宮崎…僕は、フロントとリズム隊、そしてバンドとお客さん、それら皆を繋ぐ役目がベースなんだなっていうことがよく分かってきた。そういう瞬間にやりがいを感じるね。だから今はもう、音で目立とうという気持ちは無い。時々ベースを回して目立つぐらいで（笑）。

畔上…ドラマーとしての意見だけど、やっぱりライブやっている時の会場の支配感というか、それが一番いいかなあ。あと、さっき話に出たけど、僕は骨髄異形成症候群（MDS）にかかって、成功率の低い治療をした。その経験から生きるパワーみたいなものを人に与えられる力がついたかな。

和久井…去年の今頃はみんな暗かったね。今こうしているのも本当に不思議なぐらいに大変な病気だったから。でも俺たちはやっぱりこのメンバーがよかったから、メンバーを変えずに3人で続けた。そして彼（畔上さん）が戻ってきてまた4人でバンドをやれたことで、音楽的にも、絆というか、バンドとしての根、チームワークが強くなったと思う。

——曲を作る時、バンドとしてどのように作っているのでしょうか？作曲・作詞で意識されていることはありますか？

長谷川…私は作詞担当で、和久井さんが作曲担当。そこから、バンドサウンドは皆で組み立てていくという感じ。3月の復活ライブに向けた作詞では、彼（畔上さん）の経験を通して、「信じていけば奇跡は起きる」「起こせる」っていうことを伝えたいと思っていて。数年前は、自分の内面的なものをぶつけるっていうのがほとんどだったんだけど、今は違う。病気のことは、彼だけじゃなく私自身も変われるチャンスになったね。

和久井…「長谷川じゃないとできないものは何か」というところで凄く悩む。色んなジャンルを持ってきて、ミックスして、みたいな作業をずっとやっているね。たとえばジャズのコード

感とか、今やっているのはポストロック調のサウンドを組み合わせたリ。

——どういう人に曲を聴いて欲しいですか？

和久井…例えば、自殺してしまうような若い子たち。「お前ら病んでる場合じゃないんだよ」ってね。やっぱり、彼（畔上さん）の病気を乗り越えてきたからというのが大きいな。

長谷川…最も説得力あるよ、彼（畔上さん）が出してる音は。綺麗事じゃないから。

メンバーの出会い

——現在の4人のメンバーの出会いはいどのようなものだったのでしょうか。

長谷川…まず和久井さんは、私が大学でバンドをやっていた時に文化祭の音響スタッフで来ていて。それで知り合った。

和久井…それで、昔はボーカルとアコースティ



ツクギターとトランペットという3人の編成だったんだけど。それで、トランペットが辞めるといふとき、じゃあ普通にやっちゃ面白くないねってことで、メンバーを探した。俺のライブハウスに他のバンドで来ていた宮崎さんを見て、声をかけたんだ。裕貴（畔上さん）とは野外のライブ会場で出会っていて、「レコーディングするから一緒にやって」ってことで呼んで、そのまま引きずり込んだ。「女子大でのライブも決まっているんだけど」って言って（笑）。

今後の活動と須坂

——今後、須坂でどういった活動をしていきたいとお考えですか？

畔上…俺は病気のとき、最初は須坂病院に通院していた。入った所にホールみたいなのがあって、そこでコンサートをやっているのをたまにみた。俺もそういうところでやれたらいいなと思う。俺の場合は這ってでも進もうと思っていたけど、なかなかそういう気持ちになれない人もいると思うから、「とりあえず前を向こうよ」くらいのことは、伝えられるかなって。

宮崎…俺はね、ベースっていう立ち位置のせいかな、与えられたなかでベスト尽くそうって感

じで。客側の目線で見ているというか。ごめんなさいね、主體的じゃなくて（笑）。付いていきますって感じ。

和久井…少し大きな野外フェスティバルみたいなのもやりたいけど、騒音の問題が出てきちゃう。うるさいと思ってしまふのは、音楽を聴いていないからだと思うのね。だから、そういったところをどうにかできたらと思う。

長谷川…音楽好きの人だけじゃなく、住民の人達と一緒に楽しめる音楽イベントをやりたい。前ゲストハウス蔵でやった時はよかった。いつものライブだと、お客さんは「長谷川を見たい」

って来てくれる人がほとんどだけど、蔵の場合は「蔵に行ってみようから」って予約してくれた人もいて、そういう素敵な出会いがあった。地元を発信できたのも魅力で、須坂の食べ物とコラボしたね。須坂のリングを使ったサンングリアや村山早生ごぼうで作ったお茶を販売したり。音楽だけじゃなくて、須坂だからこそできるイベントの橋渡しを、もっと規模を大きくしてやっていきたいな。

——それでは最後に、須坂の方に向けてメッセージを一言ずつお願いします。

和久井…須坂市出身なので、ぜひ須坂の方に聴いて欲しいと思います（笑）。

畔上…俺はまだここに移ってきてから日が浅いので、まず須坂を知るところから。もつとよく知って、何が出来るかっていうのを探したいかな。須坂の皆さん、よろしくお願いします。

宮崎…須坂に住んでいる人って、長野の隣だから、良さに気づかない人もいるけど、「良い所ですよ」っていうことを何らかの形で伝えられたいなと思います。

長谷川…私は、自分自身もつと須坂を愛していきたいなと思っています。音楽を通して街を盛り上げるといふより、皆さんと一緒にやって、須坂ライフを楽しんでいきたいな。（完）



2016年3月27日には、バンドメンバー全員が1年ぶりに揃い、ニューアルバムも発売する。ライブ「Dr. Yuki 復活&NEW ALBUM release 長谷川綾 ONE MAN LIVE」をINDIA live the SKY(長野市)にて開催予定。

HP: <http://13hp.jp/?id=hasegawa>

アートマッチ

音楽イベントに中心に関わる須坂市民4名（+ゼミ生1名）
で対談を行いました。須坂で活動する中で感じる問題意識を共有し、
対談者同士のコラボレーションの可能性を探ります。



対談者

■須坂フェスグループ

たけぎみひこ

（田子公彦さん・中村仁さん・

やましたてつや

山下徹也さん）

今年の8月9月頃にも開催予定の、須坂フェスの運営に関わる三人。それぞれ独自の活動（田子さん…須坂フェス発起人、ラーメン旋風堂店主。中村さん…ひとしバンド、作曲・演奏活動。山下さん…景観作りの「黒壁プロジェクト」、山下薬局店主。）も行っている。

■市民演奏会グループ

しみずさゆり

（清水小百合さん）

本フリーペーパー作成協力者。音楽イベント企画集団「ウォーム＊ハーツ」の運営者であり、プロアマ問わず誰でも演奏できる場を提供している。清水さん自身、ジャズをはじめとして音楽活動も行っている。

照井（ゼミ生）…まずは「須坂の課題」について意見交換をして頂いて、そこからコラボレーション案について話し合って頂きたいです。

Q・音楽イベントの立ち上げについて

清水…音楽イベントの立ち上げが手探りで困っている、それについて伺いたいと思っています。

田子…結構、僕は下準備なしに始めてしまうんですよ。ほんとには100まで下準備した方が受けるのかもしれないけれど、自分たちでやれることをやったら表に出してみても、面白そうだと思う人がいたら引きずり込んで進めちゃう。「もう一回観たいな、聞きたいな」と思う人を「じゃあ一緒にやろうよ」と。
清水…どうやって繋げるのか、という問題もあるんでしょうね。面識がないと中々言い出せないところはあるかもしれません。

照井…田子さん・中村さんはどのような形で人と繋がっておられるのでしょうか？

田子…基本はやっぱり飲み屋さんかな（笑）。

中村…この前、忘年会があったんですけど、そこで自分たちが他の地域を羨ましいと思うように、他の地域の人も須坂を羨ましいって思っていることを知ったんですよ。新しいことをやったりメディアに出たり、怖がらずにやって、話題を提供して。それって大事だと思うんですよ。



Q・イベントのバツティングについて

中村…全然違うイベントを同じ日にやってしまったっていうのはあまり良くないかな。

清水…同じ日にイベントががちあうことは本当に良くありますよね。

田子…水面下で企画をずっと進める人が結構多いんですよ。それで、お互い知らずにちがあっちゃうっていう。

照井…そうしたイベントのバツティングがあると、人も散って、活気もそがれる、という面もあるのでしょうか。逆に事前にお互い知っていれば「一緒にやっちゃおうぜ」みたいな動きも出てくるのかもしれないが。

田子…それはあるでしょうね。

Q・つながる手段について

田子…SNSは色々な声を拾えると思います。

清水…SNSも誰もがやっているわけではなくて、中々「広く知り渡らせる」というのが難しいんですよ。

田子…SNSをやつてない層には商売やっている人の口コミってのは強いですよ。僕らがやっているS級グルメ（須坂の食発信の屋台）という取り組みでも、対面でお客さんと会話できます。そういう時に会話を拾うものは多いですよ。てつちゃん（山下さん）の薬屋さんもそうだよ。

山下…やっぱり、待合スペースにチラシが一枚あれば皆さん必ず見ますし。「これは何だ」って聞かれて答えると、「よく分からんな」、「面白そうだね」って色々な反応が返ってきて。

田子…チラシを置いておくような場所をもっと増えると良いですね。ただ、置いておくだけじゃ結構取ってくれなかったりするんだよね。

照井…となると、そう言う時に山下さんのような「そのイベントはね」と説明できる人がいると、

田子…全然違いますよ。

Q・須坂と観光について

中村…小布施もまだ新幹線がこないときから、PRをずうっとやってたらしいですよ。それが功を奏して今の集客につながっているっていう話を聞いたんですけど、そうやって後付けでいろいろできるじゃないですか、成功すれば。だから、須坂フェスでも、スザカイザーでも、それがもしかしたらカンフル剤になって、須坂の歴史的なもののすごく人気になったりしてね。坂本龍馬だって結局は、そんなにもはやされてなかったはずなんだけど、漫画とか小説とかで一気に人気になったじゃないですか。

田子…仕掛け人がいる。

照井…そうですね。須坂に歴史的な資源とか場所があつて、何か文化的なイベントが、それに注目が集まるきっかけになったりとか、そういった流れが望ましいと思います。

Q・その流れをつくるためには？

中村…まあ長い目で見れば須坂フェスだったり、S級グルメもそうだけれども、須坂でやっぱりほら、銀座通りでのお祭りとか、もう定着しつつあるから、それを継続するってこと…。



田子…長野と小布施の間というところで、昔から僕らはなんかこう卑屈に思ってる部分があったりしてたんだけど、最近こら辺にオープンした「蔵」っていうゲストハウスがあつて、うまい使い方しているなつて。「間だから交通の便がいいでしょ、いろんなところに行けるでしょ」っていうのをすごくポジティブに捉えていて、そういう使い方って良くなって思つてた。今までネガティブだった部分をポジティブに変えていくっていうのが、僕らのこれからの仕事じゃないのかつて思つたりするんです。

Q・活動の中心世代について

田子…僕らこの歳になるまで何もできなかったようなところがあつたりして、先人達が築いてきたものを壊すなんてことはタブーだみたいなことがあつたり、自分たちで勝手にそういうふうになつていくと思ふんですよ。なんかこの歳ぐらいになつてくると、「やっちゃおうよ」っていう人がすごい増えてきている。元気だと思ふんですよ。

照井…そういう今の40、50のみなさんの背中を見て、もつと若い人が出てくるかもしれない。

田子…出てきてくれればなあと思うし、興味を持つてくれればすくいいなあ。

清水…もう世代問わず、「表現したいんだ」っていうのはすごく感じて。なかなか一步を踏み出せない人が、低いハードルの市民演奏会とかに出ることによつて、「あ、私にもできる」っていう自信になつて、それで年配の方達の生きがいになったりとか、高校生なんかも継続してやつたりですか。

Q・客観視・外の目について

田子…外の目って僕はすごく重要だと思ふんですよ。僕なんかほとんどこの須坂、長野以外は行ったことなくて、当たり前になつちやつてることがすごくあると思ふんですよ。県外の人に来て、すごく気づかせてくれる部分が多かつたかな。改めていろ

いる調べてみたら、「すごいじゃん」っていうのがけっこうあったりして。昔はさっき言ったみたいにネガティブに考えて、「山ばかりじゃんか!」とか思ったけど、そういうところは実は台風が来にくかったりとか、ポジティブに考えればいろんなものが見えてきたな、と。

照井…清水さんも外から須坂に入られたという形だと思うんですけど…?

清水…まず、一生懸命ほんとにみなさん歴史を大事にされているっていうことは、いいなと思いました。けれども町がよそから来た人向けじゃないとか、よそから来た人はその町の初心者だから、何もわからない。外から来た人はそういう面はなかなか言わないですよ、褒めることしか絶対言わない。そこが変わってほしいなあっていう思いはありますね。だいたいそういったマイナスのことってプラスを含んできてるんですよ。

Q. 対談者のコラボ案が考えられるか?

清水…じゃあ私、須坂フェスのお手伝いをしたいのと、

田子…ありがとうございます。

清水…中村さん市民演奏会に出てくれませんか?そこでいろんな方とお話できればまた楽しいかなーと思ってる…。



中村…自分でよければ(笑)。

田子…清水さん、ジャズなんですか。ジャズコラボってのもすごく楽しそうだなと。

清水…ジャズに限らず、もう音楽で盛り上がっていったら面白いですよ。須坂広くてこんなに素敵な会場がたくさんあるんで、いろんなところできたら面白いなって。

中村…清水さんに出てもらえば、新しいファンも増えるかもしれない。

田子…すごい勝手なイメージなんだけど、ジャズっていろんな楽器が入ってもいいんじゃないかなって思ってる、古い楽器とかもジャズになったりするんだよね?

中村…前なんかバンジョーのジャズきいて、おもしろかった。

清水…じゃあジャズじゃなくてジャムセッションとかいろんなもので。ジャズってすると狭くなっちゃうし。ぜひお願いします!

Q. 情報共有メディアについて

清水…旋風堂さんにでっかい掲示板を置けばみんなが情報を…。

田子…意外と遠いですよ(笑)。でも、掲示板っていいなあと思うんですよ。アピールする場所があったりすると、「こういう街なんだ」っていうのがバツと見てわかりやすいかなと。こないだ金沢にいったんだけど、一番最初に何するかって言ったらパンフレットあさりますね。バスの時刻が書いてあるやつとか見て、「これはこういう風に回るんだ」とかそういうのから始まってくる。特に須坂の場合は巨大迷路なんで…。

清水…地図とか作って…。

田子…手書きの地図があつて、一回出したことがあるんだけど、あれってものすごく温かみもあつて、その街の細かい情報が載ってたりする。そういう手作り感覚のものがあつたりするといいいかなあと。

清水…チラシやパンフレットを気楽に置ける場所があるといいですよ。そういう手書きの地図だっ

て、情報も変わってきたりしますし、それを書くことを楽しみにする方も必ずいますし、そういったことは文化的な活動ですし。

田子…地元の人間はフリーペーパーを見て情報を得ることが多い。北の方だったり、違うところの情報は入ってこないかもしれないけど、そういうのを結構網羅している。



Q・須坂フェスの最終的な野望

田子…いま、須坂って野外とかやる場所がないんですよね。その場所が出来ればいいなと思いますね。前やったところは駐車場とかだったんで、やっぱり土埃だのいろんな問題もあったり。

清水…アートパークなんかお願いしたらどうですか。綺麗ですし！そして場所の紹介になりますしね。

田子…それは面白いね！アートパーク面白いね。

中村…でも分かるかな？場所的に…。

田子…まあ、でも何かやっていると形にはなるかな。小規模でもさあ、例えば「版画美術館で室内のジャズやってます」とか、「一番奥の人形博物館で違うやつやってる」とか、で「隣の歴史のところで野外フェスやってます」とか、色々見て回ることではあるな。

中村…スタッフの数半端ない！

田子…人さえ集まれば結構できる！色々できる。

照井…仮にその方向で進めるとなると人を集めたくなってなつたときに、誰に伝えたいと思いますか？

中村…いや、どの世代にも来てもらいたいんです。でもやっぱり地元の若い子に来てほしい。特に中学生高校生とか、「おっちゃんたちより俺たちの方がもっとやってやる」という感じで。

田子…させられているんじゃないくて。

中村…そうそう。「俺だったらこうするね」とか。

清水…ジュニアエコノミーカレッジ（模擬株式会社体験）っていうのをうちの子供がやったんですけど、すごい楽しかったみたいなんですよ。小学校6年生の時にやって。それに関わったお母さんたちも楽しかったみたいで。もしもそれみたいなことを中高生でもできるよっていうのがあれば、ひよつとしたらその感動を持っていて「あつ、やりたい」と思う子はいられるかもしれない。年頃だから恥ずかしいって顔しているかもしれないけど。

中村…いいですね！

清水…すごい面白かったみたいです！本当に町の方たちには、ご苦労していただいているんですけども。手ごたえは凄くて。自分でパッケージをデザインしてみるとかいうこともやったらしくて。

中村…もしかしたらベンチャー企業作っちゃうかもしれないですね（笑）。

清水…プリント屋さんですか（笑）。

田子…こういうのやれるのも面白いですよ。

「須坂フェス、今年はやります！」

清水…応援します！



↑ 対談終了後の集合写真。白い用紙に貼られているのは、対談中に出てきたキーワード（問題点や改善策、コラボ案）

おわりに

文化活動に関わる方々が笑顔で語り合い、新たな「つながり」を見つける手助けになれたとしたら、この対談は大成功だと思えます。それぞれの問題意識や工夫が共有されたことで、今後の活動にも役立つのではないのでしょうか。読者の方々にとっても、新たな行動のきっかけになることを願っています。

須坂のむかし話

— 須坂小唄 —

製糸業で発展したころの
須坂はどんな姿だったの
でしょうか？

東行社とともに須坂
の製糸業発展に寄与

● 俊明社

製糸王、
「越寿三郎邸」

山丸一番館

現在は「蔵のまち
観光交流センター」

403

末広町

長野電鉄

● 須坂駅

405

駅前南本通り

横町中央

横町通り

角一製糸

牧家

須坂病院

須坂病院北

須坂銀行、山一製糸を興し
た「牧家邸」。現在は「須坂
クラシック美術館」

春木町南

浮世小路

製糸業繁栄
を物語る小路

東横町

金井原通り

須坂市役所

立町市役所通り

製糸業繁栄を
支えた銀行

上中町

須坂小学校

406

丸田病院

ぼたもち石積の建物。現在
の「ふれあい館しらふじ」

信陽銀行

美空ひばりや日本女優一号
の松井須磨子も公演した。

劇場通り

須坂映劇

日本最初の製糸結社

● 東行社

穀町北

当時の建物を地図に
描きこんでみました！

♪「ヤ カッタカタノタ ソリヤ
カッタカタノタ」

須坂にお住まいの方なら、この歌を一度は耳にしたことがあるのでは？そう、カッタカタまつりでお馴染みの「須坂小唄」の一節。今でも親しみ深いこの歌ですが、どのようないきさつで作られたのでしょうか？ この記事では意外と知らない（？）「須坂小唄」誕生の歴史をご紹介します。

須坂小唄が生まれた大正時代の須坂は、製糸業が大変盛んな町でした。須坂全体で六千人もの工女がいて、上町・仲町には菓子屋や呉服店、小間物屋などがズラリ。当時の繁華街は今でも

「蔵のまち並み」として残っていて、その繁栄ぶりを今に伝えています。そんな全盛期の須坂にあって、最も大きかった製糸工場が「製糸王国」と呼ばれた「山丸組」。

須坂小唄誕生の数年前、そんな山丸組も経営の危機にありました。大正三

年と九年に大恐慌があり、その煽りを受けたのです。製糸業はその不安定さから、「生死業」と呼ばれたほどでした。

こうした経営難の下で、工場には暗い雰囲気がち込み、工女たちの気持ちもどんより。彼女たちは下品な内容の歌を歌うようになってしまいました。こしえいぞう

これを聞いた工場長の越栄蔵は、なんとか工女たちを元気づけられないものかと頭を悩ませます。そして、工女たちが自然と口ずさめるような、工場歌を作ることを思いつきました。

「経営難の時だからこそ、なにか明るいものが必要だ！」と考えたのです。

歌の作曲は、下高井郡日野村（現中野市）の中山晋平、作詞は野口雨情うしやうじやうに任せられました。この二人は、あの有名な童謡、「しゃぼん玉」を手がけた、当時大人気の作詞・作曲家でした。

歌を作るため、中山と野口は山丸組の製糸工場を訪れました。当時の工女たちの労働時間は十二時間から十五時

間と、かなりきついもの。そんな苛酷な環境の中でも、懸命に働く工女たちの姿を彼らは目にしました。

「校歌のような格式ばった歌を作っても、なんの慰めにもならないし、普段口にしてもらえない……。」と、彼らは感じます。

そこで、二人は、工女たちの心にすっと寄り添えるように、須坂を見て、感じた情景をそのまま歌にすることにしました。歌詞にある「カッタカタ」というのは、彼らが工場で聞いた糸枠の回る音なのです。

こうして須坂小唄は大正十二年に完成します。初披露は東京の帝国ホテルで行われました。須坂でも、工女たちの前で踊りとともに披露され、評判となります。

のちに、須坂小唄は、須坂の人々に広く浸透していき、その名のとおり、須坂みんなの歌になりました。かつて工女たちを元気づけた歌は、今日でも須坂のみんなを元気づけてくれています。

Suzaka Musicbase

音楽を聴きたい、奏でたい。
そんな人にオススメな市内の演奏施設を紹介します。

蔵のまち観光交流センター —人と文化の交差点—



須坂駅から徒歩5分、便利な場所にある「蔵のまち観光交流センター」。ここは人と文化の交差点。楽しい音楽イベントに出会える場所だ。

定期的なものとしては、シンガーソングライター堀六平さん伴奏の歌声会(毎月第2日曜日)、そしてオカリナとギターのデュオ、「蔵の杜」さんのライブ(年4回ほどが開催されている)。歌声会では2時間で50曲ほど、歌詞カードを持って童謡や懐かしの唱歌をみんなで歌うそう！

他にも不定期でイベントやコンサート、プロの歌手のコンサートもある。

ココが見どころ！

★明治中期からまゆ蔵として

使われていた、趣のある建物。

★建物の構造上、音の反響の仕方が独特。

特に夏には柔らかない響きに。

★リーズナブルな料金。

市民の方だと無料イベント1時間
200円、有料イベント400
円。市外在住の方は1.5倍。

★観光客も訪れる、にぎわいのある場所！



所長・畔上さんから

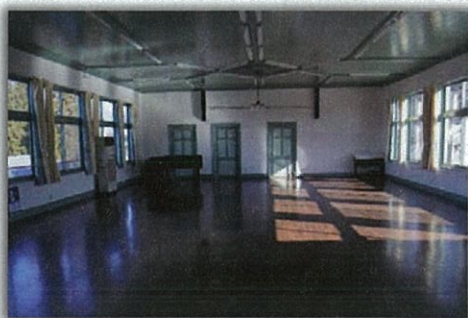
観光だけでなく、まずまちづくりから。この場所が市民のみなさんにとつて生活の一部になればと思っています。今後は絵や写真の展示、クラフト教室を増やしていきたいです。市内の他の施設とも協力して、須坂でしかできない魅力的な企画を集め、地道な活動をしていきたいです。

ぜひご利用ください。



旧上高井郡役所

―時を超えた交流空間―



閑静な蔵の町並みに突如として現れる西洋風の建物。大正時代の「上高井郡役所」が、現在は文化交流施設へと姿を変えている。

催しはピアノコンサートや落語などさまざま。須坂市の人気マスコットキャラクター「かんちゃん」の生みの親・橘 凜保さんによる平和浄瑠璃が行われたこともある。

イベントの多くが市民の自主企画であることも特徴的だ。気軽に利用できる文化交流施設として多くの市民から愛されている。

ココが見どころ！

★歴史が長く、

大正ロマンの空気がただよう。

★ジャンルや活動形態を問わず

誰でも利用可。

★施設のホール内は観客との距離が近く、

アットホームな雰囲気。

★映画美術などの展覧会も

開催されている。

★子どもへの読み聞かせ会など、

教育活動も行われる。

★春には桜が満開。

お花見をするもよし。

館長・田中さんから

大事な建物ということで、地域の人にも整備に関わっていただいています。もともとつと、市民の方に施設を知っていただいて、気軽に遊びに来ていただければ賑やかになるかなと思います。静かな建物というイメージもあるのですが、交流を深めることを目指す施設でもあるので。



須坂市蔵のまち観光交流センター

運営：須坂市観光協会

〒382-0087 須坂市大字須坂 352-2

TEL:026-248-6867

HP:<http://www.suzaka-kankokyokai.jp/contents>

旧上高井郡役所 運営：中央公民館

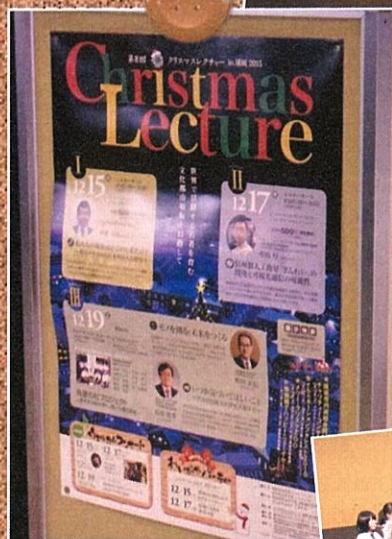
〒382-0013 須坂市大字須坂 812-2

TEL:026-245-5559

HP:<http://www.city.suzaka.nagano.jp/enjoy>

/shisetsu/gunyakusho/

みんなの体験レポ クリスマスレクチャー in 須坂



昨年12月19日(土)にメセナホールで行われた「第8

回クリスマスレクチャーin須坂」取材した。本イベントは「世界で活躍する若い人材の育成」「地域愛着の醸成」「科学マインドの普及」などを目的に、市や教育委員会、商工会議所、JA須高などが中心となつて2008年から継続的に実施しているものである。中心となる科学講話だけでなく、コンサートや高校生によるプレゼンテーション、地元の食材・食文化を活かした「わいがやパーティー」(平日のみ開催)など、さまざまな内容を盛り込み、多様で飽きさせない構成になっている。

このレポートでは、科学講話・広報体制の2点に注目してイベントを紹介する。本イベントの魅力は何か、そしてこれからの活動にはどんな展望があるか、ゼミ生と須坂市民で協力しながら考えた。

●レポータープロフィール

T…文学部4年。空手道に邁進したものの現役引退後肥満化が進行中…。

M…法学部4年。自称スーパー東大生。

K…文学部3年。何よりも「睡眠」を愛するゆるふわ大学生。

S…須坂市民。須坂の歴史に関する紙芝居と語りを中心に活躍する「蔵の町すさか昔を語る会」代表。

科学講話について

T…須坂出身の講演者を呼んでいるだけあって、高校時代のエピソードを話してくれるのが印象的だった。「入学式で先輩から卵投げられた」ってやつ笑。地元の人にとっては親近感が持てるだろうな。

M…単純だけど時間が長くないのが良かった。講演会って飽きちやいがちだから…。

T..その点では2本立てでコンサートを挟む構成も効果的だったかなと！

M..たしかに。でも内容は難しかったかなあ。ゼミ生全員文系だったのもあってコリコリの理系的な内容はわからなかった。

T..東工大の入試問題出てきたのは驚いた。あの場の何人がわかったのかな・・・。

M..僕は物理好きだから面白かったけどね。

T..好きな人にとっては面白いよね。今回はちょっと専門性高すぎたかなと思ったけど。高校生とか文系の人も楽しく聞ける内容だと科学マインドがもっと育ちそう。

M..2本立てだからもうちょっと内容を分散させるとか？

T..そうそう。あとは学校の授業みたいだったからもうちょっと双方向的な場にするとか。

M..ディベートとか？

T..具体的にはわからないけど(汗)。せつかく4校集まってるのに、発表の場でしか活躍しないのもったいないかなって。

M..なるほどね。でも今回行ってみて、HP見た時に思ったお堅いイベントって雰囲気じゃなかったから面白かった。

T..そうだね。土曜日だったから「わいがやパティー」に参加できなかったのが残念！

広報について

K..思っていたより色々な場所で広報している印象を受けました。須坂新聞の記事など、市民だからこそできる情報集めをしていただき、Sさんありがとうございました。

S..全戸配付の「広報すざか」や回覧板のほか、中高生にはチラシ配布などもありました。

K..関心がある人にとっては多くの場で目にとまるので効果的ですね。

S..そうですね。ただ忙しいとついつい見落とししてしまいますし、道行く一般の方の目にとまるポスターはあまり見かけませんでした。

K..たしかに、メセナホールまで乗ったタクシートの運転手さんはご存じなかったです。

S..関係者(主催・共催・協力)の声掛けはもちろんの事、ポスターでなくとも小さい素敵なチラシがあるのですから個人の家や店先に貼ると賑やかなクリスマススの雰囲気が出ると思います。

K..コンセプト的にも須坂市民全体が対象ですし、もっと色々な人に興味を持ってもらえるといいですね。

S..はい。各町の掲示板や店頭にある商工会議所の掲示板に張ると告知することもできますし、町中が「須坂の未来へ夢を語る」クリスマスレクチャーを盛り上げていけると素敵です。

総評

学問的な「科学マインドの浸透」と「地域愛着醸成」という毛色の違う目標をつましく組み合わせたイベントである。地域の高校四校全てが集まり、発表し、他校の取り組みを知る、という点も非常にユニークだ。講義を聴くだけでなく、多様な内容を含む構成には飽きさせない工夫を感じた。ただ、実際に参加してみてもっと面白くする余地があると思われた。導入部の市長の話や理念の紹介を、もう少し短くしてその分本編の内容を充実させる、あるいはコンサートの曲調をアップテンポなものにしてリフレッシュ効果を高める、などもっと魅力的にできる部分がありそうだった。

今回で8回目を迎えた本講座、文化活動に力を入れる須坂ならではの事業として、さらにパワーアップしていくことが期待される。



↑左から、ゼミ生T、Sさん、ゼミ生M

音風景に注目！

音風景って何でしょう？
音風景とは目ではなく、
耳で感じる風景のことです。
何気ない日常に耳をすませると
思いがけずいろんな音がしますね。

ゼミ生が取材のため須坂を訪れた
12月と1月。
その季節の須坂の音風景を、
五・七・五で詠んでみました。
(静寂の句もあります。)



一、冬の夜 キイ——つと列車に 耳くらみ

二、静寂と 落ちていく陽に 胸躍り

三、寒空に つむぐ音色は ふたりだけ

すざか

一、須坂駅の寒いホームで一人待っている時。思いがけず大きな音をたてて列車がやってきた。

二、須坂の静けさを詠んだ句。東京とは違う空気にわくわくした。

三、道ばたのカップルのワンシーン。二人の話し声だけが静かに響いている。



四、神社前に積もる大量の落ち葉。踏んでみると乾いた音がして、秋の終わりが感じられた。

五、ゲストハウス蔵に宿泊した時の句。生活に根付いたあたたかな音。

六、夜に臥竜公園に行った時の句。悠久のあなたから届くきらめきに心震えた。

六、静けさを 超えてまたたく 星の音

えた。

四、踏まれては 冬を伝える 落ち葉たち

五、ストロブが 空気を揺らす 蔵の中

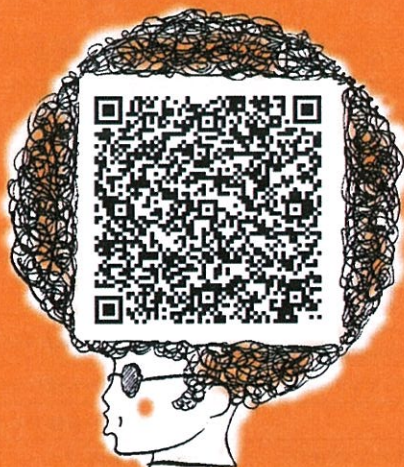
六、静けさを 超えてまたたく 星の音

ぼくらのまちの奏者たち

須坂には、バラエティー豊かな音楽団体がまだまだたくさんあります。
記事では紹介しきれなかった情報※を一挙にご紹介！

※2016年1月30日までにアンケートにご回答いただいた団体。

No	団体名	活動内容	活動場所	問い合わせ先
1	アルモジャズ	ジャズバンド	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
2	ウイング	アカペラコーラス (歌謡曲・演歌・童謡唱歌)	日滝公民館・南部公民館	026-246-4992(浅沼)
3	ウォームキハーツ	音楽イベント企画	旧上高井郡役所	090-9667-1393(清水)
4	オラフォ	ワールドミュージック (和・ジブリ・Popsなんでも)	須坂長野の各種イベント等	090-9665-1029(長谷川) FB「orafo.orafo@facebook.com」
5	休日リコーダー倶楽部	リコーダーアンサンブル(ポップス)	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
6	クッキーバンド	洋楽バンド	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
7	蔵の杜(クラノモリ)	オカリナ&クラシックギター (童謡唱歌・映画音楽・クラシック等)	観光交流センター ・市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
8	サースディカラース	ゴスペル	アートパーク (呼ばれればどこへでも)	ホームページ 「サースディカラース」で検索
9	尺八汎山会	邦楽(琴・尺八)	メセナホール	電話026-248-2557 携帯090-8329-6192(南澤汎山)
10	シニアアンサンブル須坂	主に軽音楽・学校唱歌のアンサンブル	福祉施設他	竹前忠房 026-248-2277
11	ジャズ同好会	音楽の練習	中央公民館・市民演奏会	須坂市中央公民館026-245-1598
12	JK2(ジェイ・ケイ・ツー)	ピアノ&ヴォーカル(ポップス)	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
13	ジャズミンバンド	オリジナル・コピーバンド 「スザカイザーの歌」 「八町きゅうりの歌」「かなんちゃんの歌」	市内イベント会場 及び長野市のライブハウス	フェイスブックページ 「ジャズミンバンド」で検索
14	スザカ クラリネット アンサンブル	クラリネットアンサンブル	吹奏楽のタベ 他	026-245-6342(山田)
15	須坂土笛の会	土笛	福祉施設他	026-248-0344(池田)
16	須坂東歌謡教室	発声練習・歌謡曲・演歌の練習	中央公民館	須坂市中央公民館026-245-1598
17	正派 雅尚会(せいはい がしょうかい)	邦楽(琴・尺八)	メセナホール	電話026-248-2557 携帯090-9666-0839(南澤雅尚)
18	Dandy Orion (ダンディオリオン)	POPS BAND (OLDIES、和・洋POPS)	須坂市、高山村、長野市	090-8443-7214(西沢)
19	たんぽぽ	ハーモニカ&ギター	社協施設、各種施設	026-245-7001(小林)
20	ドレミの会	唱歌	グリーンアルム	026-245-6229(牧)
21	中村 仁	オリジナル	須坂や近隣のイベント会場	090-9157-0490
22	Nissy(ニッシー)	ギター弾き語り	須坂市、長野市	090-8443-7214(西沢)
23	ハートランド	アカペラ(POPS)	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
24	ハーモニーコスモス	ハーモニカ(タンゴ・ワルツ・歌謡曲等)	中央公民館ロビーコンサート ・文芸協文化祭・他	須坂市中央公民館026-245-1598
25	ハーモニカひまわり	ハーモニカ(歌謡曲・童謡等の合奏)	中央公民館 ボランティアで老人施設等	須坂市中央公民館026-245-1598
26	はもみつ	コーラス&ギターDuo	市民演奏会・各種イベント	市民演奏会090-9667-1393
27	汎山・雅尚と邦楽グループ あおがえる	邦楽(琴・尺八)	メセナホール	電話026-248-2557 携帯090-8329-6192(南澤汎山)
28	ひとしバンド	オリジナル	イベント会場	「ひとしバンドホームページ」 http://www.symphonic-net.com/olive1962/
29	邦楽 結いの会	邦楽(琴・尺八)	メセナホール	電話026-248-2557 携帯090-9666-0839(南澤雅尚)
30	ミスターハーモニー	ハーモニカ(童謡唱歌シャンソン)	市民演奏会・各種イベント ・文芸協文化祭・他	市民演奏会090-9667-1393
31	MR.BROWN(ミスターブラウン)	アコースティックバンド	インディア ライブ ザ スカイ	090-4463-5113(島田)
32	ミッドナイトレンジャー	ロック洋楽コピー	長野市ライブハウス	フェイスブックページ 「ミッドナイトレンジャー」で検索
33	レイジーサム	アメリカンミュージック	長野のライブハウス とゲストハウス蔵	090-9247-4362(レイジーサム)



<https://goo.gl/cZAAOB>

フリーペーパー「すざかる」をお手にとっていただき、ありがとうございます！
お読みになったご意見・ご感想を、是非お寄せください。今後の活動の参考にさせていただきます。上のQRコードを読み取るか、URLを入力して、アンケートフォームへの入力をお願いいたします。

また、2016年3月31日までにアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で5名の方に東大のマーク入りノートを差し上げます。ご記入いただいた住所、お名前はプレゼントをお届けするために利用し、その他の目的には利用いたしません。

文化プロデュース講座参加者

岡田宗之 佐藤政世 清水小百合 田口融 広間軌子 水越正和 森田整 山岸克人

小林真理ゼミ

プロジェクト指導 小林真理

朝倉泰臣 東秋帆 井上涼 大井真 川口武蔵 木下詩織 越村真至 児玉卓也 小林未佳
小谷野湊 近藤多聞 進藤嵩平 杉山昂平 染谷知里 高城泰裕 寺口瑠貴 寺山ひかり
照井敬生 藤岡秀章 松井千織 松本実沙音 山口啓太 山田吉成 横田伸治

発行 一般財団法人須坂市文化振興事業団